

地域の公園活用イベントにおける ネイチャーゲーム実践について

奈良県シェアリングネイチャー協会 事務局長
奈良市まほろばシェアリングネイチャーの会 事務局長

仲野英明

<報告の意図>

○地域イベントの中でのネイチャーゲームの活用の事例

○ネイチャーゲームコーディネーターとしてどのように活動したのか？

<イベント実施の概要>

- ・地域の小中学校の規模：約250人の在校生
- ・実施時間帯：午前中（その時間の中で自由に散策し、体験し、遊ぶ。）
- ・実施母体：地区の社会福祉協議会及び地域の有志、放課後子どもクラブ など
- ・スタッフ人数：約30人ほど
- ・参加費：無料
- ・プログラム内容：フィールドビンゴ、カモフラージュ、生き物クイズ、缶つま、大型オセロ、鬼ごっこ、ケンケンパー、落書きコーナー など

2. 実施への取り組み(コーディネーターとしての関わり)

<2-1. イベントへの関与の経緯>

○コロナが少し落ち着いていた、2020年夏に市社会福祉協議会から「公園を活用して楽しいイベントが出来ないか？」と相談があり、紹介されてそのイベントの実行委員会に参加し、関わるようになり、イベントのコーディネートを行った。

○2023年春、関わった地域の方から相談「公園を活用して、子どもたちが自由に遊べるイベントを実施したい。」があった。
→ネイチャーゲームやあそびを含めた様々な活動の提案をし、地域の方に選んでもらう形でオファーを受けた。

<2 - 2. 当時(2023年春)のイベントの提案内容>

(1) ネイチャーゲーム

- フィールドビンゴ
- カモフラージュ
- 森の美術館、木のセリフ
- おちばがお、落ち葉の窓、森のスカート

(2) クイズ的なもの(謎解き的なもの)

- 間違い探し(写真とみくらべて、違いを探す)
- スタンプラリー

(3) その他、遊び(職場でやってみて楽しかったものなど)

- モルック(ペットボトルなどで自作したもの。個人でもチームでも)
- 大型オセロ(自分の色となるようにめぐりに行く、チーム戦)
- たことりものがたり(トイレットペーパーの芯で作成、個人でもチームでも)
- ダンボールハウス作り(材料を集めるのと、スタッフが多くいるのが必要)

<2 - 3. イベント実施のコンセプト>

テーマ:できるだけ手軽に楽しく出来るもの

- 公園を歩きながら、コーナー毎で楽しく遊べる場所を作る。
- 友達同士、家族同士(個人でも)遊べる内容を計画する。
- 普段できないような、遊びを計画していく。

<2 - 4. 具体的な企画進行 - 1>

○役割分担

- (1) 実行委員の方々：オーガナイザー
→運営、受付、参加賞の準備
- (2) 地域（例：児童クラブやPTA、公園ボランティア）の方々：サポート
→安全確認、スタンプの押印、あそびのサポート
- (3) 市社会福祉協議会の方：オブザーバー（協賛）
→記録撮影、全体把握 など
- (4) 仲野の役割：遊びのコーディネート
→あそびのサポートや助言、ネイチャーゲームアクティビティの準備、当日の仕込みクイズの提案 など

<2 - 5. 具体的な企画進行 - 2>

○会議での目的共有（担当：実行委員会）

- (1) 毎月2回、土曜日の午後に実施
- (2) 進捗状況の報告やゲームのブラッシュアップ、庶務事項の確認
- (3) ホワイトボードを活用し、視覚に訴えて、会議を進行する。
→決まったことや想いを共有する。

<3 - 1. 当日の様子 (ネチャーゲーム活動)>



<3 - 2. 実施当日の感想>

○約100名の参加（スタッフは総勢30名程度）

○参加した方からはおおむね好評の声を聞いた。

普段なかなかできない体を使った活動ができた。と言っていた。

○広報面について課題あった。

→紙ベースのチラシが配布や掲示が難しく、SNSでの広報のみとなった。

<4.まとめ①:事業を通じて感じたこと>

①子どもたちが安心安全に遊び、楽しめる場所(イベント)が出来てきたこと(児童福祉の立場)

→誰もが遊べるように計画をしている。

②イベントを実施したことによって、地域の団体での活用の広がりがあったこと。(社会教育分野の立場)

→当日実施した備品を放課後子どもクラブへ寄付

→雨プロなどで活用すると話されていた。

<4.まとめ①:事業を通じて感じたこと>

- ③ネイチャーゲームの紹介や体験ができた。
(ネイチャーゲームコーディネーターの立場)

○フィールドビンゴ、カモフラージュ など

→「体験する」ことでシェアリングネイチャー活動を啓発出来て、結果、他のイベントでネイチャーゲームを活用してもらえるかもしれないし、リーダー取得を希望される方も出てくるかもしれない。

<4.まとめ②:課題・今後の方向性>

<課題>

(1) 運営ボランティアの確保

(2) 地域への周知

→担い手作り、地域の方々の理解者を増やすこと

→それによって、事業の広がりが増す

<今後の方向性>

(1) このような取り組みを他の地域やイベントに広げていきたい